

2021/11/13

(うときゅういっきの「これから」+おまけの英語教室「情」の説明)

前記事「これから」の中で

「結局、我々ミンナがさがしていたのは人情だったのかも」

という主旨の内容を書きました。

正直申してもう少し反応があるかと思っておりましたが「完全なスカ」状態でございました。主旨が悪いのか、具体例が記載されていない事が説得性を欠いたのか、書き方が悪かったのかといろいろ考えてみましたが今ひとつ「これだ」という原因を掴む事ができないままでおります。

そこで今日は再チャレンジがてら少し角度を変えてお話申し上げたいと思っております。まず「人情」と書くとどうしても「ベタベタ感」「理性喪失感」「頭の悪さ感」が拭えません。夏目漱石ではありませんが「情に棹させば流される」というイメージです。

一方現代を表す言葉に「情報」という言葉があります。

英語では information その動詞形は inform です。イメージとしては IT (=information technology) やそこから派生して AI (=artificial intelligence) 等があり知性理性の代表格の様な感じですが。

しかしよく見ると不思議な事に「人情」にも「情報」にも同じ「情」という文字がある事に気づかされます。

殆ど方向性や特性は正反対の傾向なのに同じ文字がその中に含まれている。

「なんで？」

「情って何のこと？」

そこで更に観察を続けて「情」という日本語の漢字を分解してみると「忄(りっしんべん)」に「青(あお)」という二つの部位から成り立っている事がわかります。即ち「心が青い」状態。

では「心が青い」とはどういう意味なのか？どういう状態を指しているのか？が気になってきます。

「青い」から連想されるのは「若い(=young)」「みずみずしい(=fresh)」「元気がある(=vivid)」「活性化している(=active)」等でしょうか。つまり心がそういう状態にあるのが「情」が表す処であると。

それを上述の文言に当て嵌めてみると

「人情」とは「心の働きが発する若くて且つ活発な condition」を表しているそうですし

「情報」とは「心の働きが発する新鮮且つ活発な hot news」を表しているともいえそうです。

共通するイメージとしては「元気でみずみずしい(vivid and fresh)」でしょうか。

ここまで説明して話を前の記事の

「結局、我々ミンナがさがしていたのは人情だったのかも」

に戻しますと

「人情」が表す処は

単なる「ベタベタ感」等ではなくこれら上述の

相手に

「元気でみずみずしい気持ちを生起させる人の心の暖かみ」

となりました。

今思うとどうやら自分は前回の記事でそういう事を伝えたかったのではなかろうか？という気がして参りました。

補足)

英語の information (情報) の動詞形は inform だという事は既に本文で致しましたが、日本語の「情」同様この inform を分解してみますと「in + form」即ち「中 + 形、様式、フォーム」となります。

「フォームの中身、内側」と言えばいいのか「中身、内側の形」と言えばいいのか要するにどうも「contents (コンテンツ)」の事を指していそうです。

つまり contents (中身=情) の (報) 知が inform だという見立てでございます。